

議長（竹島貴行君） 1 番 森 弘秋君。

1 番（森 弘秋君） 私のほうから、2 点お願いいたします。

その前に、村職員の給料削減について、先日も国の公務員給与削減要請に係る県と市町の対応について報道されていましたが、我が舟橋村はラスパイレス指数 98% であるところから実施しないこととし、削減する条例改正を本議会に提出しなかったことに対し、村長の英断にエールを送りたいと思います。県にしましても富山市にしましても各市町にしましても、苦渋の決断をしておるといふうに聞いております。

さて、本題に入りますが、関連事項で、これも新聞報道によるものですが、富山県が昨年夏に発表した「ふるさとの空」について、知事は「すばらしい歌ができた」と関係者に感謝した。

総事業費 2,200 万円のうち、協賛金、交付金等を充て、「県民の税金を一銭も使うことなく歌ができた」と得意げな表情だったとか。が、「知事が歌うのを聞いたことがない」とリクエストする声もあったそうです。知事は「しっかり練習し、機会があれば一緒に歌いましょう」と言っておられたとありました。私も歌ったことがありません。

そこで、大変よい歌であるところから、県歌を歌う機会がないものかと考えていたところ、舟橋中学校の創校記念式が 5 月 27 日にありましたので、創校記念日当日に歌わせてもらいました。大変難しい歌で苦労されたそうです。が、県歌「ふるさとの空」を歌ったことが生徒の印象に残れば幸いです。

歌の一節を紹介しますと、4 題ありまして、最後の歌詞、「ああ また帰るよ いつかふるさとの空」と締めくくられております。

さて、舟橋村におきましても、本年度、日本一健康な村づくりプロジェクトの中で、ソーシャルキャピタルの向上と生活習慣の質の向上を 2 本の柱に、10 年後の健康な村づくりとして村歌を作成するために 100 万円の予算をつけておられます。

時間というものは遅いようで早く過ぎます。また、歌の長短等ボリュームにもよりますが、作業スタッフは？ いつごろから作業にかかれるのか。あるいは、委託されるのか。そして、いつごろに仕上げられるのか。

せっかく作成した歌であり、歌われて初めて歌は生きる。歌の普及・周知をどのように考えておられるのか。

村民が、どこでどのように勉強し歌うのか。少なくとも、ある程度歌いこなせるためには、周知、方法にもよりますが、2 カ月から 3 カ月がかかるのではないのかと思いま

す。

私は、今、舟橋村老人クラブ連合会の世話をさせてもらっておりますが、平成26年度に当連合会が創立50周年を迎え、来年ですね、4月初めに記念式典が計画されております。そこで、ぜひともこの機会に歌いたいものと考えております。

誰かが言ってくるのを待っていてはだめです。仕掛けが必要とも考えます。

現在の進捗状況、また、どのような方法で制作、作詞・作曲ですね、されるのか。普及・周知の方法について、村の計画・思考をお聞かせ願います。

次に、駅南駐車場の利用時間についてであります。

私は、平成23年6月議会で、図書館の利用者に限り駅南駐車場の無料時間を2時間から4時間に延長できないかとの質問に対して、副村長は、駅南駐車場につきましては平成18年9月から有料化され、当時、各議員から意見を聞き、例えば図書館利用者への優遇措置を含め、パーク・アンド・ライド方式としての機能の確保、受益者負担のあり方等、料金決定に当たり種々検討の結果、全ての利用者に対し2時間無料が妥当であろうとし、これからも図書館を利用される皆さんへのさらなるサービスを改善するために、来館者の意見を聞き、時間延長も含めまして検討したいと答弁されております。

また、本年3月の議会で、駅南駐車場の利用状況並びに一般会計から維持管理費を投資しておられる観点から、利用率向上の方策について、明和議員から質問があったところです。

答弁の中で、利用者台数の減少、料金収入の減少、地権者に対し賃借料の引き下げ、借地の一部を購入したい旨努力したい等、答弁されております。そして、地代のことは平成28年3月31日に期限が切れるところで議論することにしまして、今後のあり方を検討してまいりたいとも答えておられます。地代のことは、そのときに議論しましょう。

ところで、立山町の駅駐車場の3駐車場とも全て4時間無料であり、その考え方は、いろいろの用事を済ませるのに4時間は必要であろうと。で、4時間無料と決めたそうです。延長時間にしましても、4時間を超えるごとに100円であります。

舟橋村も立山町も恐らく、こう言っては失礼ですが、科学的根拠がなく、アバウトに決めた時間ではあると思います。

さらに、今、地鉄寺田駅前でも10台程度の駐車場を整備し、この7月初めから供用が始まるそうです。

やはり、これからは、住民がいかに利用しやすいか、金銭面も含め、考えることであると思います。

その時々はそれでよかったのですが、時間がたちますと、価値観が変わってまいります。

そこで、駐車場の利用について、角度を変えて、いかに村を活性化させるか。そこに、無料の駐車場がある。そこに行けば、何かがある。集客施設ですね。天外な発想から発展させねばならないと考えます。

村民の皆さんが、例えば舟橋駅に車をとめ、富山市に買い物、あるいは展覧会等を見に行く。

いかにしてサービスを提供するか。駐車場の無料ばかりではありません。

数年前から「あしたの森」公園に隣接してパークゴルフ場を整備すればどうかとの要望も聞いております。

舟橋村は、舟橋駅を拠点として公の各施設が整備されております。しかし、民営の施設も必要と考えます。企業誘致も必要と考えます。例えば4時間無料であれば、パークゴルフもできるではありませんか。

車社会は続きます。いろんな波及効果が考えられます。新幹線が開業すれば、東京往復、単純に約4時間です。4時間無料とほぼ同じ時間です。もっと先駆的に発想してはいかがでしょうか。

日本一小さな村ですから、大きな夢を持ちましょう。あっと驚く哲学の世界ですよ。周りを見ることも大事です。しかし、周りばかりを見ていると、前に進みません。そのことから、私は、駐車場の2時間ばかりを問題視しておりません。しかし、2時間では何もできない。

村民、県民の視点をどうして向けさせるかであります。

活性化のための入り口で何を提供するか。グローバルな時代です。井の中のカワズではなく、小さな舟橋村でしかできないことを実行し、全国にアピールする。

新幹線がそこまで来ます。先ほども申しましたが、企業誘致の方法もあります。地盤沈下するか、富山市のベッドタウンとして発展するか否か、私にもわかりません。

しかし、小さな村だからできることから始めましょう。まず、村の活性化のために、村民に何を提供すればよいか等々、村長のこれからの考え方をお答え願います。

議長（竹島貴行君） 村長 金森勝雄君。

村長（金森勝雄君） 1 番森弘秋議員さんのご質問にお答えいたします。

まず、村歌策定についてであります。

本定例会の提案理由説明の中でもお話しさせていただきましたが、本年度から、「日本一健康なコミュニティ」を目標とする健康構想がスタートいたしました。

ご存じのとおり、地域のコミュニティ問題は、国民の生活様式の多様化、いわゆる核家族化をはじめとする生活体系のグローバル化に伴い生じた我が国全体の大きな課題であります。急激な人口増に伴い新旧住民数が拮抗する本村では、他の自治体にも増して重要な意味を持つキーワードであると思っております。

このような状況の中で、ふるさと舟橋村に対する愛着や誇りを育み、住民相互の信頼度向上を目指し、地域コミュニティの連携強化を図ることを目的に村歌を策定するものであります。

具体的に申し上げますと、平成19年11月1日に制定いたしました村民憲章を歌詞のベースといたしまして、多くの住民が共有できる歌にしたいと考えております。ご案内のとおり、村民憲章の中には舟橋村の歴史の文言も入っておりますし、今、第4次総合計画にうたっております「命かがやく 笑顔あふれる しあわせいっぱい」の舟橋村というふうなことを、もう入っておるわけでありますので、そういったすばらしい歌詞といたしますか、村民憲章の文言であるというふうに理解しておるわけでありますので、そういった歌詞をベースにしたものにできれば、そのような歌の文言にしたいと、こういうふうに考えておるわけであります。

そしてまた、それを普及といたしますか、皆さん方に浸透していただくために、子どもからお年寄りまで、そういった歌を歌いながら踊れるといたしますか、リズムを持つということで、振り付けをあわせて検討してまいるといふことにしております。

策定の手順につきましては、まず初めに村歌の策定委員会の組織を設置いたします。そして、委員会の構成につきましては、保育所代表、あるいはまた小学校育成会、あるいはまたその他一般公募委員と、今、富山県で非常に活躍しておいでになりますシンガーソングライターの高原兄さんで構成してまいりたいというふうにしております。7月から着手いたしまして、10月末には完成を予定しているところであります。

次に、進捗状況について申し上げます。

現時点では、チーフを務めていただきます高原さんとは事前に打ち合わせを2回行いまして、委員、いわゆる構成メンバーが決まれば、すぐに着手できるとコメントをいた

だいております。また、委員の一般公募の締め切りが本日の14日となっておりますので、来週には委員を選定いたしまして、予定どおり来月から策定に入りたいと、こういうふうに考えておりますので、ご理解いただきたいと思ひます。

次に、周知方法についてであります。

本村の大きなイベントでありますふなはしまつりや、あるいはまた11月に開催しております文化祭をはじめ、保育所、小中学校の諸行事でこういった歌の披露・発表をさせていただきますして、あるいはまた各種団体へのPR、さらには本村のホームページにも掲載して、そのように普及に努めてまいりたいと、こういうふうに思っておりますし、一方では、村歌策定委員会においても有効な普及手順の検討をお願いしてまいりたいとも考えておるわけであります。

いずれにいたしましても、村歌が村民に愛され、誰もが口ずさめるような唱歌にしたいと思っておりますので、森議員のご指摘を、そのことを大切にしながら今後進めてまいりますので、ご理解をいただきたいと思ひます。

次に、駅南駐車場についていろいろと森議員さんがおっしゃったわけあります。それについてお答えしたいと思ひます。

まず冒頭に、私は舟橋村の駐車場、駅南の駐車場はどうして発生したかということをお話したいと思ひます。

これは平成5年からそういった無料の駐車場として始まったわけあります。当初は50台だったと思ひます。そして、年々その利用者の動向を見まして、現在200台余りが収容できるようなものになったわけで、これもやはり舟橋村の魅力を知っていただく、よさを知っていただくということ、そしてまた、当時は地鉄のダイヤ改正等によりまして急行がとまらないとか、通勤・通学に不便だと。それを何とかして解消していかなくちゃならんということでの一つのものがあつたということあります。そして、民有地を借り上げて無料に踏み切つたわけです。ということは、全て村持ちであつたと。そういうことであつたわけあります。

しかしながら、ご案内のとおり、小泉内閣も平成15年からスタートいたしました。その中で三位一体改革ということで、地方交付税の大幅な削減がございました。その中で舟橋村がこういった無料の駐車場をしておいていいのかと。そしてまた、その利用者たるは、村民でなくて、村外の人、村民以外の人利用してある。今、森議員も知っておいでになると思ひますが、村外です、ほとんど。そういうような状況の中で、果た

してこれがいいのかと。いろんな、私は、そういった中、当選、町長に就任して以来、各地域を回りました。皆さんと意見交換をして、タウンミーティングをさせていただきました。その中でも発言はそうでありました。そしてまた、極端な話があったわけですが、我々だけ、その自治会だけのものを無料にせいと、こういった意見もございました。

しかしながら、そういった中、平成18年に有料化に踏み切った。ということは、それなりの覚悟といたしますか、英断を下したと、私はそのように理解していただきたいわけです。そして、議会の皆さんと十分協議し、そしてまた、これも年度の途中からスタートしたわけではありますが、1カ月の試行期間。そして、1日1回100円ということをやったわけです、試行期間をですね。そして、料金を設定。そしてまた、立山町とも比較されましたけれどもと違って、定期券ですよ、私のところは。定期を出してあるんですね。そのように、定期割引をしています。

そのような違いというものを双方並べていかないと、並行していかないと、一方の話では済まされないものがある。そしてまた、その賃借料にいたしましても、500万を超える、大きな負債になる。そういったこともありまして有料化したということ、まず第1点にお含みいただきたいと思うわけがあります。

それで、元へ戻りますけれども、去る3月の定例会で明和議員さんの質問に対して答弁したものとちょっと重複いたしますけれども、今、昨年度の利用状況について申し上げたいと思っています。

昨年度の駐車台数、ちょっと見込み数と申し上げましたので、今現在、実績の数値がでておりますので申し上げます。

駐車台数は、前年度比311台減となりまして3万3,316台、そしてまた料金収入は、前年度比9万8,111円減の645万9,646円となっております。

そしてまた、昨年度の駐車場にかかった経費を申し上げますと、管理委託に対して300万円、除雪費では、機械リース料といたしまして129万円、除雪委託に42万9,976円を支出いたしました。収入から支出を差し引いた余剰金となりますけれども、170万円余を地権者に支払う賃借料に充当しているのが現状であります。

そういうことで、これからどうするのかということはいろいろありますけれども、私は、今ここでご提案あったような、検討するということは申し上げられないのは、冒頭に申し上げたことが脳裏にあるわけでありまして、皆さん方も十分そのように理解し

ていただきたいと思っております。

そしてなお、ごらんのとおり、図書館を利用される方については、完全に無料、いわゆる2時間以内は無料なんですね、駐車場が確保してあります。そういうこともあわせて、それなりの対応をしてきているということも現状認識をしていただきたい。こういうふうなこともお願いするわけであります。

しかしながら、やはり利用者を増やしていかななくてはならんと。これは、ご案内のとおり、スペースが空いておるわけでありますので、現在は七、八十台だと私は思っております。そういった中で、まだ十分に余裕があるわけでありますので、やはりそういった賃借料を払っておるわけでありますので、そういった視点から、利用者の増加を図るということは、私は、当然でありますし、そういった知恵を絞っていかなくちゃならんということを考えておりますので、今後とも議員さんと十分議論といいますか、意見交換させていただきながら、舟橋らしさのある駐車場システムを構築してまいりたいと、このように考えておりますので、よろしくご理解のほどを申し上げまして、私の答弁にさせていただきます。

議長（竹島貴行君） 森 弘秋君。

1番（森 弘秋君） 今ほど、村長から答弁、ありがとうございます。

1つ目の村歌の私の一番知りたかったところは、今聞きましたら10月末ですか、10月末ごろにはできるだろうと。で、今年度につくるわけですから、少なくとも来年度、平成26年度かな、そこからは100%とは言いませんけれども、村民の少なくとも4割か5割、四、五十%は歌えるようになるだろう、あるいは歌えなくてはならないかなというふうに思っておるんですよ。

ですから、10月末にできて、その後、周知のほうを、各種団体等々、学校なり、小学校等話もありましたけれども、そこらあたりで10月末できました後、恐らく、詩歌の募集、何かチラシが入っていましたよね。入っていましたけれども、詩歌をつくる、そして作曲する、あるいは編曲するという段階を踏まえて、それが10月末にできるのかなと懸念するんですが。

いずれにしましても、10月末にできたということで、それを、最初にできたところをやはり4月1日ぐらいからは、今言いましたように四、五十%ぐらいの村民の方が、「おお村歌。こんな歌、あるんかいな。なら、歌ってみようじゃないか」、あるいは歌えるというような段階まで持って行ってほしいなというようなことで、周知の方法、若

干答弁がありましたけれども、その周知をもう少しこれから具体的にやってほしいなど。では、できたから、どこでどこで、どんなふうにしてやっていきたいと思います。そうしないと、私が言いましたように、仕掛けが必要ですと言ったのは、そこなんですね。そういうことで、よろしくお願ひしたいというふうに思います。

それから、駐車場につきましては、私もいろんないきさつを知っておるわけではございませんが、いずれにしましても、単に、言いましたように、駐車場を2時間無料とか4時間無料とか、そういうことも大事なんですが、先ほど明和議員も言っておられましたけれども、日本一小さな村、健康な村かな、図書館が日本一だというふうなことで、やっぱりいかにして舟橋村を、全国と言ったら大げさかもしれませんが、アピールするか。そういったことをこれからも、私たち、入り口とすれば、駐車場というふうに言ったんですが、広い意味で舟橋村をやっぱりアピールするということをお願いして再質問にかえさせてもらいます。

村長から答えがあれば幸いかと思いますが、特になくても結構です。

議長（竹島貴行君） 村長 金森勝雄君。

村長（金森勝雄君） 森議員さんの再質問にお答えしたいと思います。

まず、村歌の周知といいますが、どのように普及していくのかということでございます。

私が昭和48年に、舟橋音頭を皆さん知っておいでになると思うんですが、これも、小中学校、その当時は併設校でございまして、木造の校舎からRC、鉄筋コンクリートの建物にしたわけでありまして、そのときの披露といいますが、そういった趣向のときに合わせまして舟橋音頭というものを募集し、そしてまたそれを披露したわけでありまして。その間には、やはり当時は婦人会もございましたし青年団もあったわけでありまして、その後、そういった団体がなくなりました。

今、そういった団体活動といいますが、いろんなことをやっていただけるというのはちょっと見当たらないわけでありまして、先ほど言ったように、保育所とか小中学校というものが、非常に私はそういった普及のお手伝いといいますが、していただけるのは一番でなかろうかと、こういうふうに思っておるわけでありまして。

そしてまた、森議員さんがさきの質問の中で言われましたけれども、来年の4月には老人クラブが50周年記念を迎えるということもございまして、そんなときにもそういったお年寄りの方が歌を歌いながらリズムを持ったそういう踊りもできるようなとい

うようなことは、当然しかるべきことだと私は思っています。それに報いるといいますが、そういうことに対応した進め方を十分検討してまいりますのでご理解いただきたいと、こういうふうに思っております。

それからまた、駐車場の件で、舟橋が日本一のということでありましたので、私はそういうことを十分検討していかなくちゃならんと先ほど言ったわけでありますので、舟橋らしさのそういったシステムといえますか、駐車場のあり方等を十分、そのような3つの視点から、要するに「日本一」という一つの冠にふさわしい駐車場というものを整備していくといえますか、整えていくということも大変重要なことだと思っておりますので、十分そういうことを検討してまいるといこともお約束することを申し上げます、私からの再質問に対する答弁にかえさせていただきます。

よろしく願いいたします。